

A. 日 時 2017年3月1日(水曜日) 18時00分～20時15分

B. 場 所 本会会議室

C. 出席者 松本主査 他8名

D. 提出資料《提出委員名も記入して下さい》

No. 17-01 : 第16回 性能評価法検討WG 議事録(案)

No. 17-02 : 居住性能評価指針・同解説 目次案

No. 17-03 : 性能評価法検討WG

E. 審議事項

1. 議事録確認

A) 資料 No. 17-01 「第16回 性能評価法検討WG 議事録(案)」について報告

※ 議事録案確認

→ 一部誤字訂正の後, 承認された

2. 議論

A) 資料 No. 17-02 「居住性能評価指針・同解説 目次案」について報告

※ 評価曲線の位置づけについて

→ 境界ではなく, 領域(ゾーン)での評価とする

→ 3dB刻みの設定では設計を考慮すると若干細かすぎるとの指摘があったことから, 部分的に2つのゾーンを統合(6dB刻み)した評価とする

※ デシベル表記について

→ デシベル表記の是非の検討の結果, 本文中はこれまで通りデシベル表記とするが, 解説部分において算定式等の詳細を示すこととした

B) 資料 No. 17-03 「性能評価法検討WG」について報告

※ 大きさ度合い評価について

→ 知覚の有無が検討されるようなより小さな振動に対してはアンケートから除外されている

→ 同資料における大きさ度合い評価値とは, 被験者本人が想定する最大値(各自異なる)に対する対象振動の比率(度合い)となっているので, 「非常に」「やや」等の尺度とは相容れない

※ 対象とする振動の大きさ範囲について

→ 大きさや不安感尺度における振動の大きさ範囲が, 実際の建築物で起こり得る振動の大きさから乖離しているのでは?

→ 再現期間 1 年では現行指針における H-30 程度を目指しての設計となっているが、再現期間が 5 年 10 年となればより大きな振動を評価の対象とする可能性はある

※ 水平振動における知覚確率以外の評価について

→ 今回提供の資料 (No. 17-03) はあくまで解析法検証 (継続時間の影響の加味等) のためのもの

→ 本資料における不安感に関するデータは不安の有無の回答確率であり, 不安の度合いを示すものではない (ただし, 元データをたどれば不安度合い評価による解析は可能)

→ 実在建築物において生じ得る大きさ範囲 (数 gal 程度) を対象としたより使いやすい性能評価尺度による検証も必要

※ 交通振動を対象とした水平振動について

→ 資料 No. 17-03 における不安感に関するデータでは若干レンジが大きめな評価となっているが, 資料 No. 15-06 (ならびにシンポジウムにおける交通振動評価発表分含む) における快適性評価では数 gal 程度からの指標も提示されている (小委員会では両資料の説明を行う)

→ 鉛直振動評価との連続性にも留意し, 今後とも要検討項目とする

→ ちなみに, 「やや不快である」に相当する鉛直振動評価の提案値ならびに資料 No. 15-06 における評価値はともに 5gal 程度となっている

※ 長周期水平振動に対する評価について

→ 長周期水平振動に関する研究のほとんどは, 振動を知覚したと想定される被験者の割合を算定するものであり, 各被験者の知覚の度合いを反映させたものではない

→ 鉛直振動では「非常に気になる (=度合い)」, 水平振動では「ほとんどの人が感じる (=割合)」となり評価の観点に相違がみられるので, 今後とも検討 (長周期水平振動のみは独立させる等)

→ 石川研究室の研究では, 閾値に関しては振動知覚の有無評価のみ (スイッチ方式) であるが, 不安感に関しては尺度 (度合い) アンケートを実施しているので, 不安の度合いを考慮した再検討 (回答確率的な表現を用いない検討) は可能

3. 次回以降の課題

※ 水平振動評価について

→ 不安の度合い (まったく/あまり/かなり/非常に等) を考慮し再解析

→ シンポジウムにおける交通振動分野発表資料も含め再検討

今回の WG は 2017 年 4 月 19 日 (水曜日) 18 時より本会会議室開催いたします。

資料を提出される方は, あらかじめ準備 (9 部) されるか, もしくは 2 日前までに本小委員会のオンラインストレージまでアップロードお願いいたします。